

桜の便りが聞こえてきました。今年はどこに行ってみようかと迷ってみるのも楽しみのひとつ。現在会員登録数2,910人さま。次号は4月20日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 103

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■  
【1】お知らせ

●「第35回 日産 童話と絵本のグランプリ」入賞作品決定

全国のアマチュア作家から寄せられた創作童話 2,359 編、絵本 429 編、計 2,788 編の中から、入賞作品 38 編が決定しました。

・童話の部大賞『くじらすくい』水尻 紅美子 さん

・絵本の部大賞『こがらしの日は』松丘 コウ さん

上記の2作品は、後日、絵本として出版されます。

◇入賞作品展 3月24日（日）まで開催中

大阪府立中央図書館 国際児童文学館展示コーナー（東大阪市荒本）

開催日・時間は、上記館の開館日、時間に準じます／入場無料

→ [http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html)

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → [https://twitter.com/IICLO\\_News](https://twitter.com/IICLO_News)

■-----■  
【2】コラム

\*\*\*\*\*  
《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

\*\*\*\*\*  
『つくられた心』佐藤まどか/作 ポプラ社 2019年2月 対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：近未来。政府の理想教育委員会は、「理想教育モデル校」にガードロイドというロボットを「見守り係」の生徒としてもぐりこませることを話し合う。既に防犯カメラと防犯用集音マイクは設置されており、これらによって、カンニング、いじめ、校内暴力等がなくなるという。そのモデル校の6年生になったミカは、16人の級友のうち誰がガードロイドか探してはいけないというルールがあることを知りつつ、仲良くなった仁（じん）、鈴奈（れいな）、ジェysonたちとガードロイドの正体を密かに探る。

T：「AI社会到来」と言われる今だからこそその興味深いテーマの本が出ました。

Y：作品の前後が理想教育委員会の会議の状況にはさまれており、監視され、管理されることの空恐ろしさを感じながら読みました。

T：主人公は小学6年生のミカで、近未来の日常生活が描かれます。同年齢の読者は、自分の生活と照らし合わせながら読み、自分自身を振り返ることができると思います。

この本の中では、監視の目が光ることによって「いじめ」がなくなるという考え方が紹介されていますが、日常的にいじめに接している子どもたちは、本当にこれでいじめがなくなるのかななどと思いをめぐらせることができると思いました。

Y：クラスメイトには、ベトナム人の両親がいたり、フィリピン人の母がいたりするいわゆる「ミックス」の児童がいて、さまざまな文化的背景を持っている状況が描かれているのはイタリア在住の著者らしいです。

T：どの子どももなかなか個性的で、魅力的。いろいろな子が出てきておもしろかったです。また、誰がガードロイドかという謎解きの要素がある点も読ませる力になりました。ガードロイドは、あまり特徴のない子なのか、完璧な感じの子か……。

Y：そこが、おもしろくもあり、私にとっては少しもどかしくもありました。誰がガードロイドかというのは、作品の読み方によっていろいろな考え方ができるように思われ、それが読者の考えをうながすといえば、そうなのですが、一方で、そのことについてもっと突っ込んで知りたいという欲求もありました。

私が読めていないだけで、答えはあるのかもしれませんが。ぜひ、幅広い世代の人に読んで考えてもらいたいと思いました。

\* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

\*\*\*\*\*  
《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*  
第43回「ゼロ弾きのゴーシュ」

結末で描かれない喜び

前回（当メルマガ N0.102）に続き、「ゼロ弾きのゴーシュ」を取り上げます。

仲間の楽手のなかで一番下手なゴーシュが、演奏会を控えた練習時に楽長から指摘されたことは、〈おくれる〉〈糸が合わない〉〈表情・感情がない〉の3点。まさに楽団の“お荷物”でした。

物語は、こうした問題を抱えていたゴーシュがめきめき腕をあげ、首尾よく

楽団として第六交響楽を仕上げ、ソロでのアンコールを任されるまでを描きます。楽長の〈一週間か十日の間にずいぶん仕上げたなあ。十日前とくらべたらまるで赤ん坊と兵隊だ〉という言葉がそれを端的に示しています。

ゴーシュの上達を支えたのが動物たちとの交流であることは言うまでもありません。連夜訪れた、猫・かっこう・狸・野ねずみとの交渉を通じて、ゴーシュはひたすら〈ごうごうがあがあ〉弾き続け、結果として知らず知らずの間に音楽の才能を開花させていったことになります。アンコールに指名されて〈どこまでひとをばかにするんだ〉と開き直るゴーシュは、自らの変革を認識しておらず、この成長・成功が動物たちによってもたらされたのであることも（少なくとも演奏会終了後までは）知りません。

演奏会を見る限り、夜通し練習に明け暮れたゴーシュの努力が実ったといえそうです。が、結末でゴーシュの喜びが描かれないのはどういうことなのでしょう。腕を上げ、賞賛を受け、周囲から認められてなお、結末に漂うセロ弾きの一抹の寂しさが意味するものは何なのでしょう。

そこには、ゴーシュにとって動物たちとの交流こそが重要であったことへの気づきがあるように思われます。猫に怒り、かっこうの愚直さに驚嘆し、狸との掛け合いを楽しみ、野ねずみをいたわることを通して、自分の存在意味や音楽が持つ真の豊かさを実感したのです。

演奏会の夜遅く、うちへ帰ったゴーシュが口にする〈ああかっこう。あのときはすまなかったなあ。おれは怒ったんじゃないんだ。〉という言葉は、“四日間の重み”への気づきを意味しています。誰かのためにひたすらに〈ごうごうがあがあ〉弾き続けた時間の重みとその喪失が、ゴーシュの心をつかっていたのではないのでしょうか。（ペ吉）

（本文の引用は、角川文庫版『セロ弾きのゴーシュ』によりました。）

\*\*\*\*\*  
《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 103  
\*\*\*\*\*  
その11 さまざまなご質問にお答えします（21）おはなしについて5

質問：昔話を語る時、書かれている言葉をそのまま覚える必要がありますか。

（前回のつづきです）

前回は、子どもが知らないことばがあったとき、そのまま語ることに意味があるということについて述べましたが、今回は、翻訳された昔話について考えてみたいと思います。

外国の昔話を語ることは、それを通して聞き手に海外の文化を伝え、多様な考え方、感じ方を伝えるという意味で意義深いことだと思います。

初心者の方は、そのまま語れるテキストを使うことをおすすめしますが、だんだん語りなれてくると、自分に合った作品を選ぶために、さまざまなテキストから作品を選ぶようになります。ところが、翻訳のばあい、表現が固くて耳で聞いてもわからない語句や言い回しが使われていることがよくあります。

もちろん、原書にあたってそれを検討することもできるわけですが、それはなかなか難しいのが現実です。そこで、可能であれば、複数の翻訳を読み、まずは、基本にするテキストを決めます。そして、他の翻訳と比べながら、その昔話の伝えようとしていること、おもしろさを理解し、変えるべき表現を考えていきます。その際、大切なのは、そのおはなしが、何をいわんとしているのか、書かれていることばはどのような文脈で使われているのかを理解し、登場人物の人物像を想像し、耳で聞くには不自然だと思われることばを変えろということなのです。そうすることによって、他の翻訳の表現を使うこともあれば、自分で表現を工夫することもあると思われれます。

おはなしとしてのまとまりを考えずに部分的に直してしまうと、おはなしがぎくしゃくしてしまいます。何度も声に出しながら、そして、グループのメンバーに聞いてもらいながら、語るテキストを作り上げることが大切です。

\* 次号も引き続き同じ質問について考えます。ぜひ、ご質問やご意見をお待ちしております。(Y)

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

兵庫県立美術館で、5月26日まで開催されている巡回展「不思議の国のアリス展」に行ってきました。

この展覧会では、『不思議の国のアリス』の作者ルイス・キャロルの自筆原稿やスケッチ、挿絵画家ジョン・テニエルによる挿絵の下絵、初版本、翻訳本、いろいろな画家の原画、映画の映像、パンフレット、舞台の写真、レコード、芸術家の作品（絵、写真、立体作品、人形）など200点以上が、「1章 始まりの話ーアリス誕生」「2章 アリスの物語ー不思議の国への招待」「3章 アートの国ー世界が愛する永遠のアリス」の大きく3つに分けて展示されています。

1章は、1865年に出版された『不思議の国のアリス』に関わる貴重な資料が数多く展示されていました。『不思議の国のアリス』の初版本はもちろんのこと、キャロル自身が撮影した主人公のモデルとされるアリス・リデルの写真、キャロルがアリス・リデルに贈った手書き本『地下の国のアリス』の挿絵のためのキャロルが描いたスケッチ、挿絵画家ジョン・テニエルの鉛筆で描かれた下絵、『不思議の国のアリス』の赤ちゃんがブタに変身する場面がしかけで見られる切手ケース（キャロルの発案）などがありました。

2章は、『不思議の国のアリス』と『鏡の国のアリス』のストーリー展開が、章ごとにさまざまな画家の原画で楽しめる構成になっています。ヘレン・オクセンバリーのスニーカーをはいた元気なアリスのお茶会の場面、ジョン・ヴァーノン・ロードのハンプティ・ダンプティが塀から落ちる場面、アンヘル・ドミンゲスの黒髪のゴージャスな感じのアリス女王の絵など、描く画家によって違うアリス像や場面を楽しみました。

3章は、1903年に初映画化された映像や、1951年公開のディズニー映画のキャラクターモデルシートやストーリーボードなどとともに、アーサー・ラッカム、サルヴァドール・ダリ、マリー・ローランサン、草間彌生、山本容子

など、国内外のアーティストによるさまざまなアリス作品が圧巻でした。

アリスの物語がこんなにも芸術家を刺激し続けていることに驚き、展示品の多さに溺れた感覚を持ちながら、会場を後にしました。(K)

### 【3】全国のイベント紹介

- 大阪国際児童文学館を語る会・考える会 in ふくちやま
  - ・ 記念講演会 「こども ことば 絵本－絵本が育てるこころの根っこ」  
講師：松田素子（編集者、作家、翻訳者）
  - ・ トーク&トーク 「絵本からYAまで ー子どもの本のいまー」  
パネリスト：仲野恵子（みかんの木文庫代表）  
松田素子  
松本則子（人形劇団クラルテ、  
全国児童・青少年演劇協議会運営委員長）
  - コーディネーター：土居安子（大阪国際児童文学振興財団総括専門員）
- 日時：3月30日（土）午後1時～4時10分
- 会場：市民交流プラザふくちやま 3F市民交流スペース（福知山市）
- 参加費：有料 申込み：必要
- 主催：大阪国際児童文学館を育てる会、「大阪国際児童文学館を語る会・育てる会 in ふくちやま」実行委員会
- 後援：大阪府子ども文庫連絡会 / 福知山市教育委員会 / 福知山市 / 大阪国際児童文学振興財団

- 第29回箕面手づくり紙芝居コンクール 作品募集
- 募集期間：4月16日（火）～5月15日（水）必着
- 募集規定：アマチュアの手作り作品に限る、ほか
- 募集部門：
  - ・ ジュニアの部（作者・画家・演者とも小学生・中学生の作品）
  - ・ 一般の部A部門（当コンクール入賞経験者）
  - ・ 一般の部B部門
- 主催：箕面市教育委員会 / 人と本を紡ぐ会
- 問合せ：箕面市立西南図書館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

### 【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『つくられた心』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.103 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。  
締切は4月10日（水）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

—|—|—|—|—|—|—|—|—|

新年度目前のこの時期は人事異動の内示のシーズン。自分自身には関係がなさそうでも、なんとなく落ち着かない。仲良くしていた人との別れもあるが、新たな出会いや、新しい一面を再認識するというのも楽しみ。そんな今の時期は、やはりわくわくドキドキなのだ。(T A)

-----

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いいたします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

-----

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL : 06-6744-0581 FAX : 06-6744-0582 E-mail :office@iiclo.or.jp

-----

-----